

第6回小牧市東部まちづくり審議会 議事録

1 開催日時

令和4年3月25日（金）10時00分から正午まで

2 開催場所

小牧市役所 東庁舎5階 大会議室

3 出席委員（名簿順）

増田 昇（会長）	大阪府立大学名誉教授
大塚 俊幸（職務代理）	中部大学教授
古池 嘉和	名古屋学院大学教授
蛭原 義裕	一般社団法人小牧青年会議所
田中 秀治	社会福祉法人小牧市社会福祉協議会
坪井 和巳	小牧商工会議所
秦野 利基	こまき市民活動ネットワーク
柴田 良奈	小牧市小中学校 PTA 連絡協議会桃ヶ丘小学校母親代表
落合 勝之	陶小学校区地域協議会
深堀 修	篠岡学区地域協議会
小柳 松夫	桃ヶ丘小学校区地域協議会
原 正行	公募委員
藤村 歩	公募委員
三木 孝行	公募委員

4 欠席委員

横山 幸司	滋賀大学教授
和田 貴充	空き家活用株式会社代表取締役 CEO
稲垣 武磨	尾張中央農業協同組合
中川 豊	光ヶ丘小学校区地域協議会
村上 富士男	大城小学校区地域協議会
渡邊 比呂子	公募委員

5 出席オブザーバー

戸田 久嗣	愛知県県営住宅管理室
浅田 裕人	愛知県交通対策課
南木 宏和	独立行政法人都市再生機構
小塚 智也	一般財団法人桃花台センター

6 事務局

鵜飼 達市 都市政策部長

笹尾 拓也	都市政策部次長
平野 淳也	都市政策部東部まちづくり推進室長
加藤 宗礼	都市政策部東部まちづくり推進室 推進係長
横井 久志	都市政策部東部まちづくり推進室 専門員
林 亮佑	都市政策部東部まちづくり推進室 主任
桂川 隼斗	都市政策部東部まちづくり推進室 技師

7 傍聴人数 6名

8 会議内容

1 開会

あいさつ

2 議事

(1) パブリックコメントの実施結果について

(2) 東部振興構想（案）の修正について

3 答申

東部振興構想（案）

4 議事

(3) アクションプラン（案）について

(4) その他

5 閉会

■議事録

【事務局】

本日はお忙しい中、ご出席いただきありがとうございます。

それでは、ただいまより、第6回小牧市東部まちづくり審議会を開催させていただきます。

私は、都市政策部次長の笹尾でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

まず、はじめに、資料の確認をさせていただきます。本日の配布資料は、次第に記載したとおりであります。ご確認いただき、不足等ございましたら、お申し出いただきますようお願いいたします。

それでは、次第に沿って進めさせていただきます。

まず、はじめに増田会長よりごあいさつをいただきたいと思います。

【会 長】

皆さんおはようございます。本日は今まで議論してきたことの答申を予定しておりますので、よろしくお願いいたします。コロナも一旦落ち着き、桜の見頃は来週の土日ぐらいになると思います。他方では世界情勢で心の痛むような状態が続いておりますが、粛々と審議会は進めてまいりたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

【事務局】

ありがとうございます。ここで、ご報告申し上げます。本日の出席委員数は14名でございます。し

たがいまして、小牧市東部まちづくり審議会条例第6条第2項の規定により、本会議は成立いたしております。

それでは、以後につきましては、小牧市東部まちづくり審議会条例第5条第2項に基づき、会長が会務を総理することとなっておりますので、増田会長にお願いしたいと思います。会長、よろしくお願いいたします。

【会 長】

それでは、ここからは私が議事を進行させていただきます。

まずは、本日の進め方について説明させていただきます。次第をご覧ください。

次第にありますとおり、議事としては、(1) パブリックコメントの実施結果について、それを受けて、(2) 東部振興構想(案)の修正について、一旦そこで閉じまして、その後、(3) アクションプラン(案)について、及び(4) その他の4つの議題となっております。

議事1、2が終わった段階で合意形成をいただけましたら、その場で最終的な東部振興構想(案)を本審議会の答申としたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

その答申後に、(3) アクションプラン(案)について具体的にどのように行動していくのかということが非常に重要だと指摘を前回もいただいておりますので、議論できる時間を確保して進めてまいりたいと思います。

それでは、(1) パブリックコメントの実施結果について、及び(2) 東部振興構想(案)の修正箇所についてを一括で事務局より説明をお願いします。

【事務局】

東部振興構想(案)に対するパブリックコメントの実施結果について、及び構想(案)の修正について説明させていただきます。

お手元の資料のうち、資料2をご覧ください。

最初に、今回実施しましたパブリックコメントの概要についてです。

まず、このパブリックコメントの趣旨ですが、当審議会においてご議論いただき、取りまとめた東部振興構想(案)について、市民の皆様からのご意見を募集するため、当市が定めた手続要綱、手続要領、及び運用方法の内規に基づき、実施したものです。

次に、資料の1番の項にあるとおり、意見の募集期間は、令和4年1月17日から2月15日までの30日間。

資料の2番、意見募集の周知については、市広報、市ホームページへの掲載に加え、市の公式LINEでもお知らせしました。

また、当審議会の委員の皆様をはじめ、今年度開催しました、東部まちづくりワークショップの参加者の方々にも個別にお知らせしたほか、市民団体の会合などでも説明及びお知らせを行いました。

なお、今回のパブリックコメントは、市民の皆様が分かりやすいよう、構想(案)に加え、構想の内容を要約した概要版を付して実施しました。

続いて、資料の最下段、4番の項になりますが、提出された意見の件数は、10名の方から10件の意見を頂戴しました。

裏面をご覧ください。

ここには、いただいた意見、及び意見に対する市の考え方を記載しています。

ご意見としては、構想に賛同するもの、スピード感を求めるもの、地域を支える自治会の担い手不足を訴えるもの、現状認識から具体的な提案をしていただいたもの、ご自身の活動と絡め構想に期待する意見、インフラ整備の要望などがありました。

これに対する市の考え方については、それぞれの意見の右欄に記載していますが、意見の内容により、あらためて構想の趣旨である東部地域のまちづくりに取り組んでいくうえでの行動のみちしるべとなるよう将来像などを明確にしたことを説明しているほか、構想に記載のある事柄については記載場所の提示、具体的な提案については今後の参考にさせていただく旨、そして、構想実現に向け、スピード感をもって取組を進めていくために、毎年、アクションプランを作成しながら対応していくことなどを記載しています。

なお、資料の7ページから8ページにあります、8番目のご意見において、成熟したまちには文化が必要であるとのこと指摘がありました。市としましては、文化はまちづくりの上で貴重な地域資源であると考えますので、構想に反映することとし、本編への修正を行っています。

お手元の資料のうち、資料3をご覧ください。

資料3、構想本編の(案)の45ページになりますが、こちらの上段、黄色で色付けした部分に、先ほどご説明しました文化に係る記載を追加しました。

今、説明しました構想(案)に対する意見及び市の考え方については、当審議会ののち、公表することとしています。

引き続き、資料3についてですが、パブリックコメントの後、事務局において、より分かりやすくするため、記載を若干修正しています。

4ページをご覧ください。

中段にある、こども夢・チャレンジNo. 1都市宣言の説明について、もともと33ページの取組方針の部分にあったものですが、市全体の方向性を示すものということで、移設しました。

続きまして、資料4をご覧ください。

こちらは、東部振興構想の概要版として、構想本編からポイントとなる部分を抜き出して要約したものです。

東部振興構想策定後の周知のため、作成する予定の(案)となりますので、ご参照いただければと思います。

パブリックコメントの実施結果について、及び東部振興構想(案)の修正についての説明は以上です。

【会 長】

ありがとうございます。

前回の審議会で多くの意見をいただきまして、事務局の方でパブリックコメントの原案を作成して、パブリックコメントに至ったという状況でございます。その際に、市民の方に対し、極力わかりやすく、意見を出しやすいようにするために概要版を作成し、取り組んでいただきました。

事務局からの説明に対し、ご意見等はございませんか。

【小柳委員】

意見ということではございませんが、パブリックコメントを実施して、10件もの意見が寄せられたということで、パブリックコメントとしては珍しいことだと思いますし、その内容も前向きであって、非常に大事な意見を述べてくれたらと思っております。もう一つは、私が言うよりも坪井委員のほうがいい

かと思いますが、特にスマートインターチェンジ等につきましては、期待している意見が2番にありましたが、これも令和6年の3月にはオープンしたいというような話もありますし、このようなものをコロナ禍で計画されているようでもあります。民間の事業ですので、行政としては具体的な表現はできないと思いますが、街づくりの関係としては大変インパクトがあるものではないかと思っております。パブリックコメントを寄せていただいた方々に委員として感謝を申し上げたいと思います。

【会 長】

ありがとうございます。東部地域のみではなく、他地域からも色々な意味でご賛同いただいていることには少し勇気づけられたような状況だと思えます。

他によろしいでしょうか。

戦略会議のころからお世話になっておりました秦野委員いかがでしょうか。

【秦野委員】

非常に壮大な意見をしっかりと繋げていただけたと思います。概要版についても、図も多くわかり易いと思います。この中にヴィジョンが3つあり、多様な人が暮らし続けられるということが書かれています。しっかりとこのようなことが書かれているということは生活者の視点に立ってまちを作っていくということが盛り込まれているということです。おそらくアクションプランの中で、より具体的なことが進んでいくのだらうと思いますけれども、そのようなところにも多くの方々に参加をいただきながら作り上げていくというような構想になったのではないかと思います。

【会 長】

他によろしいでしょうか。

職務代理の大塚委員には前回の意見の後、構想（案）への反映ということでご尽力をいただきましたが、パブリックコメントの結果も含めていかがでしょうか。

【大塚委員】

パブリックコメントということで、原案につきましては、本審議会の皆様からいただいた意見をまとめて計画書（案）をつくったと。それをパブリックコメントにかけて、市民の皆様からの意見を募るということで、計画を実施していく後押しになるような多くの意見をいただき、心強く思っております。さらに、そこで終わらずに、出された意見の中で、やはり文化という部分の記述が弱いというところを事務局でも受け止めていただいて、それを盛り込むことによってうまく行政と市民、そこに企業にも入っていただければなおさら良いのですが、一緒になって良いスタートが切れるのではないかと思います。

【会 長】

ありがとうございます。

100%完全かと言われると、そうではないかもしれませんが、審議会で議論してきた内容を取り込めたのではないかなと思っております。したがって、ご意見ご質問がなければ、この東部振興構想（案）で答申をしたいと思えます。よろしいでしょうか。

(異議なしの声)

【会 長】

ありがとうございます。それではこの計画案で答申を行いたいと思います。ご承認いただきありがとうございます。それでは、只今ご承認いただきました答申（案）を市長に答申をさせて頂きたいと思

います。
一旦、事務局へ進行をお戻しします。

【事務局】

ありがとうございました。ただいまご承認いただきました東部振興構想（案）をもって、答申をいた

だきたいと思

【会 長】

前向きなご意見をいただきましたので、実行に移さなければいけないということをひしひしと感じま

す。それと、市の中でも東部地域とそれ以外の地域での格差といいますか、東部の遅れを取り戻したい、
あるいは振興させたいという意見が出ていたのではないかなということを実感したパブリックコメン

(休憩)

【事務局】

お待ちせしました。準備が整いましたので、再開させていただきます。

審議会を代表して、増田会長より山下市長へ答申をお願いしたいと思います。

増田会長、山下市長、マイクの前へご移動をお願いします。

それでは、増田会長、よろしくをお願いします。

【会 長】

令和4年3月25日、小牧市長 山下史守朗様、小牧市東部まちづくり審議会会長 増田昇

東部振興構想（案）について答申

令和3年3月23日付けで諮問のありました東部振興構想（案）について、これまで6回にわたる会

議を開催し、東部振興構想の策定に関する事項について検討を重ねてまいりました。
これまでの提言は、貴市でご検討いただき、東部振興構想（案）に反映されてきております。構想の

決定にあたりましても、本審議会の提言を十分に尊重していただくようお願いし、ここに東部振興構想

（案）を別添のとおり答申いたします。

なお、本審議会における各委員の多岐にわたる貴重な意見を参考にいただき、本構想に基づいて、
東部地域の振興が進むことを期待します。

(写真撮影)

【事務局】

ありがとうございました。ご着席ください。

それでは、ここで市長よりお礼のあいさつをさせていただきます。

【市長】

改めましてこんにちは。

第6回の審議会ということで、ただいま、増田会長から東部振興構想（案）につきまして答申をいただきました。

6回に渡りまして、皆様には熱心にご議論いただきましたこと、心からお礼を申し上げたいと思います。東部振興構想につきましては、私も委員の一人として戦略会議を開催させていただきました。その議論をもとに審議会に引き継ぎまして、市が考えていることを含めて皆様方に話をし、また、皆様から市に対し様々なご意見をいただき、このような構想にまとめていただきました。毎回の会議の後に、事務局を通じて皆様のご意見を拝見し、必要に応じて私からも指示をさせて頂きながら、この構想を練り上げ、このような形でとりまとめ頂いたということでございます。

増田会長からもお話がございましたように、この会議の中で、様々な委員の方からの多岐にわたる貴重なご意見をいただきましたので、今後の東部まちづくりに活かしていきたいと思っております。

東部地域につきまして、戦略会議の際に、東部市民センターにおいて、住民の皆様にもご参加いただき、パネルディスカッションを行ったことを思い出しましたが、住民の皆様の思いやご意見をいただきました。最初は、東部の高齢化、人口減少が進んでいく中で、課題がありまして、それを解決しなければいけないという状況での構想策定というイメージがありましたが、話を進めていくうちに改めて東部地域の様々な魅力を再発見し、それを活用しながら、PRをし、将来に向けて前向きに夢のあるような構想にできるというような希望を感じさせていただきました。皆様からご意見をいただき、この構想を策定いただく中で、それが見えてきたと思っているところでございます。

今後は、市全体でもそうではありますが、特に東部にお住まいの皆様としっかりと構想を共有しなければいけないと思っております。まずは、市民の皆様にお伝えをして、夢を共有していき、それぞれの住民、事業者、大学など関係のある皆様の巻き込みながら、それぞれやるべきことをやっていくということに繋がるように市として推進をしていきたいと思っております。

まずは、スタートダッシュということで、アクションプランに位置づけるリーディングプロジェクトを展開しつつ、まちづくりの基盤となるプラットフォームの構築を進めてまいりたいと考えています。是非、審議会の皆様にも引き続き見守っていただき、また、ご参加いただき、一緒になって実現をしていくために、引き続きお力添えをいただくことを心からお願いを申し上げます。

重ねてではありますが、熱心にご議論いただきました委員の皆様へ心からの感謝を申し上げ、答申をいただきましたお礼の挨拶とさせていただきます。大変貴重なお時間をいただき、ありがとうございました。

【事務局】

ありがとうございました。市長につきましては、他の公務がありますのでここで退席をさせていただきます。

【市長】

失礼します。ありがとうございました。

【事務局】

続きまして、議事（3）アクションプラン（案）について議論いただきますので、再度、進行を増田会長にお願いしたいと思っております。

よろしく申し上げます。

【会長】

市長さんから「前に進める」という力強いお言葉をいただきましたので、その第一歩となるアクションプランについて議論を進めてまいりたいと思っております。よろしく申し上げます。

事務局より来年度以降の3か年のアクションプラン（案）が示されており、これはローリング計画ということでもあります。資料にあるとおり、リーディングプロジェクトとして、ワークショップや、トライアルをしていただいたりということでもありますので、一度ご説明をいただいて、議論をしたいと思っております。よろしく申し上げます。

【事務局】

それでは、議事3、アクションプラン（案）について説明させていただきます。資料につきましては、資料5、資料6をご覧ください。資料5は「アクションプラン（案）」、資料6は「アクションプラン（案）参考資料」となっております。

こちらの資料については、このうちの一部分ではありますが、昨年11月12日に開催しました、第4回の当審議会におきまして、「リーディングプロジェクトのイメージ」ということでご提示させていただきました。ご意見をいただいたところでございます。

その際に、増田会長からも確認がありましたが、具体的な取組を示す、これらのアクションプランやリーディングプロジェクトについては、当審議会にお諮りして、議決をいただく性質のものではなく、東部振興構想に掲げる各種指標などを通じて見える東部地域の状況を踏まえ、委員の皆様から、より良くしていくためのご意見を頂戴しながら、毎年、市が更新を図っていくものとしています。

では、ここであらためて、アクションプランがどういうものであるのか、作成する趣旨、また、先の審議会でも議論いただいたリーディングプロジェクトとの関連性などについて整理する意味でご説明させていただきます。

資料5の4ページをご覧ください。

「東部まちづくりへのいざない」という意味を込めまして、プロローグとしたページですが、この下段4行にあるとおり、東部地域で進める取組をまとめたものが、このアクションプランでございます。

そして、その下に書かれているのが作成の趣旨です。すなわち、東部地域で実施される取組をアクションプランという形でまとめ、見える化することにより、東部地域での取組を多くの方々を知ってもらい、興味を持っていただき、取組に参加したいと思う人を増やすことが目的でございます。

次に、7ページをご覧ください。

このページの図は、構想本編にも登場しているものですが、アクションプランの構成といたしましては、図の下段、「別編 アクションプラン」にあるとおり、アクションプランの中に、リーディングプロジェクト・実施中の取組・その他の新たな取組という3つのカテゴリーがある形です。

続きまして、17ページ・18ページをご覧ください。

今、申し上げた3つのカテゴリーの違いについてですが、お聞きいただいたページ以降に「実施中の取組一覧」を掲載しています。まず、カテゴリーの一つ「実施中の取組」は、このように、現在、東部地域で、あるいは、市内全域が対象で東部地域も含んで、実施されている取組を構想（本編）の取組方針ごとにまとめたものでございます。

少し飛びまして、29ページ・30ページをお願いします。

2つ目のカテゴリー「その他の新たな取組」については、ここにあるように、これから新しく実施していこうとしている取組をまとめたものでございます。

ページを戻っていただいて、11・12ページをお開きください。

最後に、3つ目のカテゴリーとなります「リーディングプロジェクト」です。これは、少し分かりにくいかもしれませんが、「実施中の取組」と「その他の新たな取組」の双方の要素を含んだカテゴリーとなります。

名称が示すように、「先導的に実施していく取組」という位置づけですが、イメージとしては、既に実施されていたり、これから実施していこうとする取組のうち、取組同士を組み合わせたり、新たに広がりを持たせ発展させたりといったことにより、注力していきたいものを、「プロジェクト」としてまとめ、特出しするものです。

引き続き、ここに掲げるリーディングプロジェクト1・2についての説明です。

11ページの「人と人がつながるプロジェクト」は、まちづくりの基盤となるプラットフォームづくりのキックオフとして、今年度開催した「東部まちづくりワークショップ」を発展させ、より本格的に取組の実施を想定したワークショップを開催しようとするもので、内容につきましては、13ページ、14ページに記載しております。

なお、このワークショップの開催につきましては、当審議会においてもご意見があったように、なるべく早い時期に実施すべく、参加者の募集を4月中頃から行っていく予定としております。

続きまして、12ページの「まずはやってみようプロジェクト」は、人と人がつながるプロジェクトで実施するワークショップにおきまして、具体化した取組アイデアを、実際にトライアルとしてやってみようというものであり、トライアルの検討から実施までを来年度内に行う予定でございます。なお、トライアルの実施にあたっては、スタートアップ支援といたしまして、市から一部助成を行います。こちらの内容につきましては、15ページ、16ページに記載しております。

次に、資料5の説明の最後になりますが、31ページ・32ページにあります「東部地域のまちづくりの進め方」をご覧ください。

ご承知のとおり、東部振興構想自体は、10年の計画となりますので、この間に、いかにスピード感を持って、かつ柔軟に取組を進めていくかが重要であることを、これまでの議論でも、幾度となく、ご意見をいただいたところでございます。

そこで、このアクションプランについては、構想実現に向けての進捗管理のツールとしても活用すべく、毎年更新しながら、かつ一過性に終わらないよう、都度、その後3か年の計画を組んでいくというローリング計画としています。

具体的には、31ページの図にありますように、アクションプランの毎年の更新の過程で、アクションプランの実行によって、まちづくりの進捗状況、つまり、東部地域がどのような状態になっているのかを、取組方針の達成度の確認によって把握するため、取組方針ごとに設定しました10個の参考指標をチェックします。

そこから、今後、必要なことなどを評価・判断しながら、当審議会でのご意見をいただき、取組の改善や追加の形で、アクションプランへ反映していくという流れを、繰り返していきます。

最終的には、K P I（重要業績評価指標）をチェックすることによりまして、まちの状態を把握し、まちづくりの方向性の確認を行っていくことで、東部振興構想に掲げる「東部地域の将来像」の実現につなげていきます。

資料5のアクションプランについては説明は以上ですが、ここで、資料6をご覧ください。

第4回の当審議会で、「リーディングプロジェクトのイメージ」として資料をお見せした際は、4つのプロジェクトをお出ししましたが、うち2つが、こちらの資料にあるものです。

ご覧いただいているように、この2つについては、「調整中」とし、参考資料として提示していますが、その理由を説明します。

当審議会でも状況を報告しましたが、今年度開催しました「東部まちづくりワークショップ」におきまして、今後の東部地域でのまちづくりのアイデア出しを行いました。その中で、「桃などの特産品に関わる後継者不足への工夫」や「東部地域の魅力の発信」についてのテーマ出しが行われました。

今、申しあげましたテーマは、まさに、ここにあるリーディングプロジェクトのテーマに近いものでございます。

したがって、住民主体のまちづくりを目指す東部振興構想の実現に向けては、あくまで住民発でプロジェクト化していくことが期待されますので、市側から先に提示してしまうのではなく、せっかく出てきました取組の機運をさらに高め、「ワークショップ発の取組」とするべく、先ほど説明しました「人と人がつながるプロジェクト」、「まずはやってみようプロジェクト」として実施するワークショップにおきまして、これらのテーマを具体化し、トライアルとして実施してみた過程を経て、あらためて、リーディングプロジェクトとして位置付けていきたいと考えています。

このことから、来年度作成するアクションプランについては、リーディングプロジェクトも含め、まずは、資料5のような形で考えておりますので、委員の皆様のご意見が頂戴できればと思います。

「アクションプラン（案）について」の説明は、以上でございます。よろしく願いいたします。

【会 長】

ありがとうございました。

どのようにして取組を産み出していくかということで資料5ないし資料6に基づいてご説明をいただきました。これは来年度以降産み出すための意見交換ですので、忌憚のない意見を出していただいて、より実りある行動の第一歩が踏み出せればと思いますので、よろしく願いします。どこからでも結構ですので、ご意見いただければと思いますが、いかがでしょうか。

秦野委員どうぞ。

【秦野委員】

非常に見やすいアクションプランだとは思いますが、こちらは、どれくらい印刷されて、どういう方に届けられてというところをお伺いしたいと思います。

【会 長】

いかがでしょうか。

先ほど市長さんも市民の方々にどれだけ知ってもらおうのかという話もありましたが、いかがでしょう

か。

【事務局】

こちらについては、まずは、ホームページで公表したいと思っております。また、公共施設等に置くなどして配布していきたいと考えております。

【会 長】

よろしいでしょうか。
秦野委員どうぞ。

【秦野委員】

もう一つお伺いします。おそらく、さきほど4月にでも、人がつながるといようなキックオフミーティング的なものをたぶんされるのかなというイメージをもったんですけれども、その開催に向けてどういう風に声掛けをしながら、振興構想を皆さんにPRしていくということも同時に進めながら、また、こういったアクションプランについても皆さんに理解をしていただきながらスタートしていく。やはり時間的に4月にいきなり集まれといってもなかなか難しいという面もあるのかなという気がするのですけれども、その辺りの段取りとかについてお伺いできればと。

【会 長】

いかがでしょうか。

【事務局】

まず、4月から募集をかけたいというところで、まず広報とか市のホームページ等に載せるですとか、これまでのワークショップに参加された方ですとか、それから各団体ということで、地域協議会ですとか、教育機関ですとか、あとそういった先を訪問したりご説明して、募集と併せて東部振興構想の周知啓発を共に行っていきたいと考えています。

【会 長】

秦野委員どうぞ。

【秦野委員】

けっこうですね。こういうものは学生さんが若い力でけっこうやる気になって引っ張っていただけるという部分がすごく大事だと思いますので、できればそういったところにも声をかけていただきたいと思います。

【会 長】

他、いかがでしょうか。

【事務局】

先ほど教育機関といいましたが、大学も含めて訪問、周知を図っていきたいと考えております。

【会 長】

前回のワークショップで学生さんが半数くらい入って、かなり活性化したと思いますが、それを継続してお願いできる状況なんでしょうか。いかがでしょう。

【事務局】

今年度実施しましたワークショップにつきまして、終了後に、一度、大学へ行きまして、引き続きご協力いただきたいとお願いしました。実施するというのであれば啓発をさせていただくということでご了解いただいておりますので、今回は中部大学さんでしたが、それ以外の大学にもお声がけて学生の数を増やしていきたいと考えております。

【会 長】

わかりました。

戦略会議をやったときですが、アンケートを見ると、中高生もけっこういろんなアイデアをお持ちでしたので、中高生の意見を取り入れたり、あるいは参加していただいたりというのも良いかもしれないですね。

他はいかがでしょう。

小柳委員どうぞ。

【小柳委員】

僕の場合は地元の人間ですので、これをどうやって消化していくかというところになるかとは思いますが、いきなりこれに書かれていることはできないですけど、今具体的に考えていることは、地元の桃ヶ丘小学校の校内に耕作農園というのがあります。それができたときは、千人以上の生徒がいて、先生もたくさんいましたが、今は、もう 450 名前後の生徒になっていますので、農園の面倒を生徒達にみてもらったり、先生に指導してもらうのは難しいんです。そこで、僕たちの地域協議会が学校に代わって手入れをしようかと。だいたい 100 坪くらいあって、そこには桃の木や柿の木もありますが、まだいろいろなものを植えようと考えています。だいたい草がぼうぼうになっていたものですから、早速学校と相談して、私どもができる範囲でやろうかということで、もう始まっております。今ジャガイモを植えましたけど、大根を植えたり、これから、いろいろなものを植えますが、子供たちとの収穫祭をそこでやってみたいと学校に提案しました。篠岡のまちづくり全体にどう響くかは別として、そういう試みは初めてのことで、私どもはそれをしっかり実行して、生徒は収穫祭に参加するというようなことを学校とも相談してやっていきたいと思っています。

そして、もう一つですが、周辺で家庭菜園をやっているような人がけっこういらっしゃいます。そういう人たちに協力してもらって、これは規制が厳しいかもしれませんが、青空市場をやりたいなど。菜園で取れた青果を持ち寄って参加していただいて、安く提供していくというようなことを試みたいなど思っております。小さいことですが、それが一つの起爆剤になって横につながっていくと非常にいいと思います。細かいこととかいろいろまずは自分の身の回りから一つ志してみようということで、4月17日の地域協議会の総会で提案する予定です。

【会 長】

わかりました。その際、是非とも東部地域の農家の方と連携できるようなになるといいと思います。

【小柳委員】

桃ヶ丘小学校の農園の手入れに際しては、僕たちが家庭菜園で使うような器具ではとても掘り起こしができなかったのですが、今日はいらっしゃっていませんが、JAの稲垣委員に相談したところ、早速、掘り起こしのできる大きな耕運機を持ってきてやってくださったんです。このように、農協さんとも関係があり、今後は農協さんの指導員の方も学校に来ていただけるような話になってきています。そうすると農家との繋がりが強くなりますし、資料6の関係もあります、桃農家の後継者不足が深刻なんです。そのように、桃も含め、周辺の農家のことも、勉強して知識を持ちながら考えていくということを進めていきたい。全体からすると小さな取組かも知れませんが、そういうところから一つ一つ取り組んでいきたいと思います。

【会 長】

市民農園で作った作物を流通させるのはなかなかハードルがあるので、基本的には、農家の人の指導を受けて、それをお手伝いをしてるという体裁で、農家として出荷する。そういう仕組みを作るとマルシェに出していけるんですね。そういうような仕組みで家庭菜園ではないんですけど、農家の方と一緒に作った作物が流通するとか、定期市ができるとかですね、そういう方向だったら上手いなと思います。

【小柳委員】

試行錯誤しながらですね、そのようなご指導いただきながらやらないかと思っていますけど、取り組みとしてはそんなことを企画して一歩前に進めればなど。

【会 長】

なるほど。わかりました。ありがとうございます。
古池委員、どうぞ。

【古池委員】

資料6の「桃でつながるプロジェクト」の取り扱いのことで少し気になるのですが、先ほどこれが調整中になっている理由について、外発的というよりは内発的ということに控えているとの説明であり、それは理解できました。

ただ、例えばステップ3で記載してあるケーキ屋さんやパン屋さんのアイデアは、私の記憶だと、ワークショップのアイデアのひとつであったと思います。確かに、外から見るとこの地域には果樹が豊富にあり、これを活かしていきたいとアイデアが思い浮かびますが、私の捉えている「桃でつながるプロジェクト」の最終版は、3年や5年でできるイメージではなく、この会議の当初でも紹介したと思いますが、中国の陶淵明の言葉を借りるのであれば、正に「桃源郷を取り戻す」ものです。

小牧市史にもあるように篠岡は桃源郷だということです。このプロジェクトの概要は、私のイメージでは、「桃を起点に東部地域を桃源郷として取り戻す」ことです。確かに桃農家を支える、あるいは桃を食文化に活用することは必要ですが、「理想郷」として、桃の花が咲き誇る景観のなかで、理想的なコミュニティをどう再生させるのかということが大切です。それが、共通理解であるならば、桃源郷を

取り戻すことを目的として、その中身をリーディングプロジェクトの中で、皆さんでつくることを考えていって欲しいと思います。できれば、「桃でつながるプロジェクト」は、アクションプランの中に入れていただきたいと思いますが、その際には、篠岡で桃の花が咲き誇る写真なんかがあれば、一緒に掲載して落とし込んでいただけたら嬉しいですね。

【会 長】

ご提案ということで、事務局よろしいですかね。これが育っていったリーディングプロジェクトの中に位置付けていくということが、非常によい方向だと思いますので、ぜひともそんな形にしていけるといいのではないかと思います。

他、いかがでしょうか。私から一つ、まずはやってみようプロジェクトみたいなやつを来年度中に2、3個できるのか、いや1個しかできないのか。事務局としてはどのくらい想定してみえるのでしょうか。

先ほど、小柳委員がおっしゃった学校の農園を使用したプロジェクトを、この「まずはやってみようプロジェクト」に位置付けるとかですね、複数個考えられるのではないかと思います。これからワークショップで出てくると思うのですが。

深堀委員どうぞ。

【深堀委員】

実は私どもの篠岡学区地域協議会では、遊休地を活用して、春は菜の花、夏はひまわり、秋はコスモスのフラワーパークという取組を昨年の暮れから取り掛かっています。それで、小中学校に問いかけて、花植えをするときに児童・生徒に参加するように声掛けをしています。そういうことも、地域協議会としては進めていきたいと考えています。

今相談しているのは、さつまいもを植えて育てていくようなことも考え、広く遊休地の活用を広げていきたいと考えています。

【会 長】

事務局いかがでしょうか。何個かありうるのでしょうか。

それともメインとなるものを一つということで考えられているのでしょうか。

【事務局】

ワークショップの中で、取組の意見が出てからと考えているのですが、「まずはやってみようプロジェクト」は、予算としては、100万円の予算を確保しております。つまり上限20万円の助成金で、5件分を見込んでおります。

【会 長】

単独ではなく、複数考えられているということですね。それはありがたいと思います。

ただ、今までどおりの活動ではなく、それに少しプラスα、新しい視点を取り入れ、展開していくプロジェクトを企画提案していただき、認定するなり、ワークショップで検討、協力していく仕組みができると発展が期待できます。

他、いかがでしょうか。蛭原委員どうぞ。

【蛭原委員】

昨年開催された第5回の審議会でも話しましたが、青年会議所で東部地域寄りにある高校の誉高校さんとプロジェクトを組んでおりまして、内容としては、桃を活用して何か小牧のブランドをつくれなにかということを考えておりました。今、実際に、このプロジェクトを動かしているところで、桃ではなくなるかもしれない状況ではあるのですが。このプロジェクトは東部まちづくり推進室さんにもご協力をいただいているところです。

「まずはやってみようプロジェクト」は、事業を動かしていくことが大事だと思いますが、この企画提案書で教えていただきたいのですが、これは市が決めるフォーマットがあるのかという点と、企画提案書を提出してから審査、交付までの期間について、もし決まっていたら教えていただけたらと思います。

【会 長】

いかがでしょうか。16ページのところで、「まずはやってみようプロジェクト」のステップ1の企画提案書の提出のところのご質問ですが、いかがでしょうか。

【事務局】

企画提案書のフォーマットという点については、現在、検討しているところです。補助金の交付までの期間については、おおよそ1週間から2週間程度になるのではないかと考えています。

【会 長】

この「まずはやってみようプロジェクト」ですが、予算的には5件ということでしたが、私はもっと乱発してもいいのではないかと考えています。

「まずはやってみようプロジェクト」として、認定するプロジェクトと予算を支給するプロジェクトと2種類あってもいいのではないかと考えています。

この東部振興構想に基づいて、新しいプロジェクトがどんどん生み出されていくということは、非常に大きな姿として見えてくるので、予算を伴うプロジェクトと予算を伴わないけど認定を受けて構想に基づくプロジェクトと、たくさんプロジェクトが進んでいく。そんなこともワークショップの中で議論いただければいいと思います。

【事務局】

そのあたりは、柔軟に対応していきたいと思います。

【会 長】

いつもいろいろな市町でも言いますが、他人の権で相撲がとれるようなことを考えないと、すべて自分が組織でやるということになると、動きがとれなくなってしまいます。

持ち込みプロジェクトというか、提案プロジェクトを極力、認定するような形でやっていくと、非常に活性化しているという姿が目映りやすいと思いますので、少しご検討いただければと思います。

【落合委員】

既存の活動のなかに、東部地域では、ホテルの里を中心にした大山川の自然を守る会、もう一つとし

て、大山廃寺の周辺や、ちごの森を整備している団体もありますので、今、言われたように、資金を支援するなり、認定するなり、そんなことをしていくといいなと思いました。

【会 長】

極力、そのようなプロジェクトがあるというのがいいと思います。その認定の仕方や申請の仕方ということは、これから考えていけばいいと思います。ありがとうございます。

他、いかがでしょうか。

【蛸原委員】

企画提案書などでしぼるところはしぼらないといけないと思いますが、難しすぎるとなかなかプロジェクトに進んでいかないのではないかと思います。プロジェクトを進めていくために、スケジューリング感を提示いただきたいということと、団体が進めようとやろうとしている事業に補助金や認定をいただいて、場所ひとつ借りるにしてもお金はかかってしまうので、そういう部分を支援していただけたらとかで各団体が進めるプロジェクトを後押しいただけるものを取り入れていただけたら、青年会議所としても助かりますので、ご検討いただければと思います。

【秦野委員】

アクションプランが非常に大切だと思っています。

プラットフォームからアクションプランが出てきて、それが振興していくという図式だと思います。

そうだとすると、そのプラットフォームをどのように整えていくのか。例えば、登録制度にして、この指とまれ方式として、参加したい人が自由に参加できる仕組みにしていくことが大切だと思います。

また、プラットフォームを説明する資料がアクションプランと別に必要なのではないかという気がしています。

それと、このアクションプランは分かりやすくいいのですが、アクションプランやプラットフォームの進捗について、どのように見える化していくかが大切だと思います。

例えば、QRコードが掲載されており、携帯をかざすと進み具合がわかるとか、会議の登録、申込、参加ができるというような、やはり入りやすさみたいことは重要だと思っています。

あと、もう一点、31ページの10の参考指標というのは、それぞれの項目に記載されています。その下にKPIのチェックということが記載されていますが、これが何なのか、これでは分からない状況です。そのあたりの改善はお願いしたいと思います。

【会 長】

まず1点、4月くらいにワークショップメンバーを募集しようかといったときに、ワークショップが目指している姿ってこんな感じですよ。とか、それが育って東部まちづくりプラットフォームという形になったりしていくと思いますが、その時にある一定の役割であったり、機能とか、どんな仕組みを持っているかということをつくっておく必要があると思いますが、準備状況はいかがでしょうか。

【事務局】

プラットフォームの構築というのを目指しまして、まずはワークショップと併せて、プラットフォームについてもご意見がありましたように、この指とまれのよう形で参加していただける方が多くなる

よう努めていきたいと考えています。

今のアクションプランとは別にプラットフォームについて内容等を詰めたうえで、説明するチラシや冊子などを作成したうえで、周知、募集をしていきたいと考えています。

【会 長】

その点で、秦野委員からもありましたが、プラットフォーム、ワークショップは必ずしも対面型だけでなく、ネット上でのプラットフォームができてもいいと思うし、ネット上でのワークショップができてもいいと思うので、今の時代に即し、リモートと対面との併用型みたいなものを考えていったほうがいいと思います。

他、ありますか。

【秦野委員】

今、増田会長が言われたとおり、やはり情報がどこまで進んでいけるのか、気軽にプラットフォームに乗れるというようなそういったハードルの低さということが大切だと思っています。

そうすると、携帯ですぐに申込が出来たり、私も手伝いますといったようなことが名乗れるような形で進めていただけるといいのかなと思います。

【会 長】

これは、釈迦に説法ですが、プラットフォームが持っている役割は2つあって、ひとつは情報交換ができるとか情報共有できるということ、もうひとつがそこから何らかの行動起点となって、意気投合して行動の起点となるということ、この2つがプラットフォームの大きな役割です。やはり情報交換がどう気軽にできるかという話と、行動の起点となるときに、一人だけでやっていきましょうだとなかなか大変なので、複数の団体、複数人が協力してやりましょうというようなプロジェクトが産み出されていくような仕組みが出来てくるといいと思います。

この点はよろしいでしょうか。

もう一点目は、31ページのPDCAサイクルがわかりにくいということですが、そのあたり事務局から説明をお願いします。

これは本編にもあり、ページでいうと54ページと連動していると思いますが、どうでしょうか。

【事務局】

会長が言われますとおり、本編の54ページのことを記載したところです。アクションプランの31ページに記載する参考指標というのが、本編56ページに記載する指標となります。

アクションプランに記載する取組を進めたうえで、実施した翌年にこの参考指標の推移をみながら、取組の改善をしていくことを毎年行うことで、アクションプランの進捗管理、さらにKPIの推移をみることで、東部まちづくりの進捗管理をしていくということでもあります。

なお、わかりにくいというご意見もありましたので、記載の仕方については、改めて事務局で検討させていただきたいと思います。

【秦野委員】

KPI って急に突然出てきても、なんなのかわからないという話になるのではないかと思います。この

冊子を見られる方の理解度も関係してくると思いますが、特にこの冊子だけ見られる方は分かりづらいのではないかと思います。

例えば、13ページにWSと記載されています。これってワークショップの略でWSと記載されていると思いますが、これをWSってなんだろうなど、分かる方も見えれば、分からない方もいると思います。

こうして冊子につかう言葉も非常にわかりやすく、表現していくことが大切なのかと思いましたので、発言させていただきました。

【会 長】

よくやる手法でいうと、一旦かたい言葉でつくったものをコピーライターみたいなものを入れて、少し柔らかくするとか、極端なことをいうと中学校3年生くらいの方が見て理解できる内容になっているかというようなチェックを入れてみるとか、そんなことが必要なのかもしれない。ありがとうございます。

他はいかがでしょうか。落合委員どうぞ。

【落合委員】

先ほどの続きみたいで申し訳ありませんが、陶小学校区は上末、下末、高根の3つの区でできています。

そのうちの下末の区では、移動販売のことを研究しています。会館もあることから、会館に移動販売が来て、その来るときに何かイベントができないかということを考えています。

来年度から、マルシェのような形で賑わいが創出できないかと思っています。地域協議会の活動は、市の協働推進課のチカラになってもらえるので、地元の人とも話をして、何かははじめようと思っているところです。

【会 長】

マルシェのことを、青空市とか定期市と言ってもいいのかもしれませんが、この頃、農家の方は軽トラをお持ちで、別名「軽トラ市」と呼んでみたりすることもあります。

その時に、お客さんを集めるために、単にマルシェをやっているだけでなく、その横でこどもの読み聞かせ会をしてくれるグループがあるとか、お母さん方の悩み相談室みたいなことを横で併設するとか、広場等があるのであれば、健康ヨガのプログラムが横で行われていたり、あるいは、会館があるのであれば、こども食堂みたいなことが開かれていたりとか、そのような活動同士をマッチングして定期市につなげていかないと農家の人が、せっかく時間をとって軽トラ市をしても、売り上げがあんまりなかったということが起きます。

私が住む隣の町で金剛ニュータウンではまちづくり会議というものをつくっていて、そこでマッチングをして、「軽トラ市の日に、読み聞かせ会するグループはいませんか。」ということをしています。

何かの参考になればと思います。

結構、たくさんの目がありそうで安心しました。「まずはやってみようプロジェクト」が何個か出てきそうで非常に楽しみです。

事務局、何かありますか。

【事務局】

先ほど、スケジュール的な話が出てたと思いますが、リーディングプロジェクト1「人と人がつながるプロジェクト」については、4月中旬から募集をかけ、5月下旬もしくは6月上旬から3回ほどワークショップを開催しまして、参加者に企画提案書をまとめていただき、12月ごろまでの期間をとり、リーディングプロジェクト2「まずはやってみようプロジェクト」のトライアルにつなげていきたいと考えています。なお、そのトライアルの活動報告を発表会という形で2月ごろに開催し、リーディングプロジェクト1及びリーディングプロジェクト2を年間通して、進めていきたいと考えています。

【会長】

その時にもう少し、フレキシブルに考えていただき、ワークショップからしか「まずはやってみようプロジェクト」は提案できないという形ではなく、いろんな形で、地域の方からも新たな取組の目があることから、もう少し枠を広げて考えていただいたほうが、いろんな取組がスタートしやすいのではないかと思います。予算を拡大しなさいということではなく、仕組みとして融通性というのは必要だと思いますので、事務局でも検討いただければと思います。

【深堀委員】

ちょっと気になったのが、人と人とのつながりということでは、地域協議会もそういう取組を行っているのですが、先ほどご紹介したフラワーパークの話もそうですけど、これと、これから進めようとしているものとは、どこかで分けられるものなんでしょうか。分けしたほうがいいんですかね。

地域協議会も人と人とのつながりや、高齢者のこともテーマになっていて、新しいものも取り込める場合は取り込んでいこうとしています。そうしたときに、これとのつながりはどうなるのか。まずは地域協議会で取り上げて、そのあと、こっちで起こすのか、それとも、先にそっちのほうで立ち上げて地域協議会に分散していくのか、その辺りが、私の頭の中で混乱してきています。

【会長】

そうですね。地域でいろんな既存の活動があるので、その辺りとの仕分けですよ。ご指摘のとおりで、どう仕分けしていったらいいのか、どう認定していったらいいのかという話が要るのかなという感じがします。

これは、会長としての発言ではなくて、一委員としてですが、従来型のものから従来型として置いておいて、従来型の中から新たな視点を取り込んで展開したいものはプロジェクトとして認定していくようなことを考えていくのも一つかなと。従来型を全部認定していくと、今までの話と何が違うんだということになりますので、ちょっと一歩踏み出したような形がいいのかなと。これは、本当に会長としての意見ではなくて、一委員としての意見でございます。

【会長】

他はいかがでしょうか。来年の予定を聞きますと、これからの一年ぐらい、やってみようプロジェクトで、こんなプレゼンがありましたなんて意見交換ができると、ものすごくいいと思います。

三木委員どうぞ。

【三木委員】

私は、「桃花台を考える会」に参加していますが、桃花台に住んでいる方というのは、現役でお仕事されているときは、いろんな企業で、いろんな要職に就かれていて、いろんな引き出しを持っていらっしゃると思います。

そういう地域で進めようとしている、この「人と人がつながるプロジェクト」というのは、ものすごく良いことだと思います。

今、桃花台を考える会で一番悩んでいるのは、どうやって、そこに人が来てくれるのか、参加してもらえるのかということなんです。そこに参加してくれる人が大勢いればいるほど、相乗効果が生まれて、いろんな計画の加速度がつくと思うんです。今、いろんな案が出されましたが、人が集まる工夫というのを、もう少しみんなで考えていかないと、せっかく良いことをやろうとしているので、何とか人がいっぱい集まるようにしたい。

工夫としては、「目的」を見せてあげるようにすれば、能力を持っている人が、参加して、能力を出しやすい環境ができるのではないかと思います。

【会 長】

分かりました。

いろんなところでそうですが、既存の活動が全くゼロというところは無いです。いろんな意味で既存の活動があって、それと、こういう構想を作ると、新たな活動があって、それとの連携とか統廃合とかいう話というのは、非常に大事で、今までの活動とか、やってこられた方々との連動・連携をどうしていくのか、それを一つの力としてどうまとめていくのかということ、非常に大きな課題です。その辺りも、このワークショップで慎重に議論していただいて、プラットフォームづくりをしていくのもよいのかもしれません。もしかしたら、既に「桃花台を考える会」が一つのプラットフォームとしてあり、それに対して、また行政が、東部地域のまちづくりを考えるプラットフォーム「Part 2」みたいなのを作りましたという形にならないように、どう整合させていくのかということ、これは大事な話かなと思います。ご指摘のとおりです。

それで、力を合わせる事ができれば、より発展していくと思います。

大塚委員、何かその辺りで、ご発言ありますか。

【大塚委員】

私も、三木委員と同じで、桃花台を考える会の会合などにも参加させていただいていますが、桃花台だけではなく、その周辺も含めて、それぞれの分野で、いろいろ活動されている団体があります。そういう人たちの活動を、どうつなげていくのかということのも大きなテーマであって、今回、この計画の中で、ワークショップで新たに人を集めてということのも一つのきっかけになると思うのですが、いかに、既存の活動を、さらに発展させていくための仕組みという点で、先ほど秦野委員からお話があったように、「この地域ではこんな活動がありますよ」という情報が見えて、それに関心があると、「関心がある」というボタンをクリックする、あるいは、「参加してみたいな」というところで、そういうメンバーが登録されていって、全体の集団を形成していくというように、構想の実施にあたって、それに何らかの形で関わる人達を、いかに増やしていくのかということの仕組みを、もう少し詰めていかないといけないのかなと。そこは、行政も中心になってやっていただかないと、なかなかスタートの時点では、うまく行かない部分もあるかと思いますので、行政、地元の人もそうですし、周辺の人、企業の方の力と

いうのも、かなり重要になってくると思います。

具体的なことは、今は浮かばないですが、既存の組織も、かなり苦勞しながら活動されていますので、そこを上手くやっていくことを考えていかないといけないと思います。

【会 長】

そうですね。

このリーディングプロジェクト1で、ワークショップには、2つの大きな目的があるのではないかと思います。一つの題材は、東部地域で、既存の組織も含めて緩やかなプラットフォームを形成していくためには、どうあるべきかとか、みんなが気軽に入れる、気軽に情報交換できるプラットフォームの在り方とか作り方のような議論をしていただきたいということ。もう一つは、今の（案）にあるように具体的なプロジェクトを動かしていくというように、ワークショップの目的というのは、大きく2つあるのかもしれないですね。

前回のワークショップは、どちらかという、プロジェクトを産み出していくような形でのものだったと思いますが、今回のリーディングプロジェクト1というのは、人と人がつながるための仕組みを、東部地域でどう作ったらいいですかということだと思います。今日の皆さんからのご指摘を聞いていると、プロジェクトを産み出すだけでなく、既存の組織との関係も整理しながら、どう作ったらいいですかみたいな話が、一つの大きな議題になるかもしれないですね。

これが、ワークショップがゆくゆくのプラットフォームになると、ネット上にしろ、対面型にしろ、どうやって呼び掛けをして、そのプラットフォームを、どう維持していくのかという仕組みですね。その辺りも段々と重要になってきて、市が事務局をずっとやるのか、あるいは市民で事務局ができるのかとか、そういうことも含めて、このプラットフォームの在り方というのを考えていかないといけないと思います。

プラットフォームの在り方は別途考えて、当面は実行するプロジェクトを産み出すことに集中するのか、あるいは、難しい議論になって漠然とした形態になってしまうかもしれませんが、人と人のつながり方について、どんな仕組みがいいのかということの一つの目標にして、ワークショップをするのかというところを、市の内部で検討いただければと思います。

他、いかがでしょう。田中委員どうぞ。

【田中委員】

今、会長のお話を伺いながら、リーディングプロジェクトの中で、企業さんに参画していただくの良いのだろうなと思いました。今回、具体的なプロジェクトを産み出すというワークショップの中で、誰が他に働きかけるのかいうところを考えていかないと、かなり難しいのかなと感じながら聞いていました。参加された方の中で、力のある方でやっていただければいいのですが、やっぱり、関係機関などに集約しながら、関わり合いをもっていけないといけないなと、自覚をあらためたところです。

企業の方々の中でも、非常に多くの方々、地域貢献ということを考えられていますので、少し声をかけさせていただいたり働きかけることで、先ほど落合委員がおっしゃったように、移動販売でも協力いただいている企業だとか、輸送サービスでもやっていただいている企業もありますので、そのところも、私共みたいな社会福祉協議会も、ぜひ参画させていただきながら、やらせていただきたいなと思ったところです。

【会 長】

ありがとうございます。
坪井委員どうぞ。

【坪井委員】

少し話が戻るのですが、パブリックコメントで、「ハイウェイオアシスに期待する。スマートインターができれば」という意見もありましたが、商工会議所も関わって進めているところですが、このアクションプランに、民間の事業なので書けないということかもしれませんが、皆さん期待しています。それが出来た暁には、道路面での影響があるので、ハイウェイオアシス事業を成功させるために、例えば行政として道路面で支援していただくとか、古池先生が桃の話をされていましたが、例えば、「みなべ」という町は、何もないところなんです、梅の観光ということでまちおこしをされていらっしゃる。せっかく小牧には、桃がありますので、桃の花を見てもらう。でも、篠岡地区の住民の方だけではどうこうできないと思います。いろんなことに関して行政がリードしていただく、あるいはワークショップで地域の方等にこういうことがやりたいんだと手を挙げていただければいいんですが、待っていてはなかなか出てこない。これが自分たちの利益、収益につながらないと手は挙がってこない。ですから、行政から後押ししていただくことも考えていただかないと少し難しいのではないかと思います。

【会 長】

ありがとうございます。
他いかがでしょうか。
藤村委員どうでしょうか。

【藤村委員】

少し話が戻りますが、私、下末に在住してまして、先ほど落合委員から話がありました移動販売の件については、回覧がまわってきており、話は存じ上げていました。具体的に何をやるのかわからないものの、あまりお店が多い地域ではないことから、とても良い試みだなと思っていました。それに加えて、集会所などで子育ての相談会なんかがあったらいいなという話が、会長からありました。子供会の行事などもその会館で行っているの、併せて進めるというのは、とても良い試みだなと思っていました。

また、私、今、小牧市のLINEアカウントに登録していますが、コロナワクチン接種の情報を得るために登録しましたが、定期的に情報が届くのです。そのLINEを活用して、東部地域での取組を発信することで、受け取る方が、比較的身近に感じられるようになるのではないかと感じました。こういった取組があるんだと知ることができるようになるのではないかと思います。効果的な手法ではないかと思います。

先ほど、桃の花の話があったと思いますが、東部地域に住む人にとっては、とても身近なもので、子どもたちは桃の袋掛けなど体験しています。また、子どもたちは袋掛けなど関わった桃を収穫し、ジュースをつくるというような体験もしており、とても身近なものであります。しかし、東部地域に在住していない方からすると、めずらしい話だということも改めて感じることもできたので、そういった取組もLINEで発信することで、東部地域に在住していない方にも知ってもらえるいい機会になるのではないかと思います。

【会 長】

私の住んでいる泉北ニュータウンは、開発されてから50年になるのですが、ニュータウンができたときに、戸建て住宅のなかに、レモンの木を植えられる方が多く、ニュータウンですので、名産品もなく、お土産もないまちです。ある主婦の方がレモンストリートというプロジェクトを立ち上げて、地元の加工業者と連携されて、ジャムの名産品づくりをしたり、ケーキの名産品づくりをしたりして、市にも協力いただき、緑道や公園にはレモンの木を何本か植えてもらうようなことを展開していました。桃花台ニュータウンのなかでの桃の導入、一家に一本どうですかというような取組を進めながら、農村地域と連携するとか、地元企業で加工業者みたいなのがでてくると、さらに発展していきます。そんな展開ができるといいのかと思います。ありがとうございます。

はい。すみません、原委員どうぞ。

【原委員】

直接、今やっていますアクションプランとはずれるんですけど、いよいよ最後にきましたので、ちょっと一言お願いといいますか、注文したいのですが、この東部まちづくりというのは、市の行政の組織の中で、特定のエリアについて対象とする部署はここだけなんです。それは東部地域が小牧市内の他の地域に比べて、言葉ちょっと悪いかも知れませんが、遅れているということです。開発が十分ではないということの裏返しだと思います。一方、桃花台を含めた東部地域というのは小牧市全体で言いますと、面積で4割を超えています。つまり、市の半分くらいが市の他の地域より遅れているという、私数字を見て意外に思ったんです。それが現実一つあります。それから二つ目として、この広い東部地域の問題を今日こうやって構想がまとまりました。これを推進するには、余程大きな行政の力がないとこれは進まないと思います。そうすると、一室の推進室だけでこれからこのことを具体的に具現化できるのかというと、これは少し心配になります。つまり、もう少し、格を上げた部署で強力に対応しないと現状をさらに良くするというのはかなり難しい気がします。そういう意味で行政側の体制をもう一度考えてみたらどうかという気がします。以上です。

【会 長】

はい、わかりました。ありがとうございます。柴田委員いかがでしょう。

【柴田委員】

私は桃花台ニュータウンができてからずっと住んでいますが、ここに来ていろいろな難しい課題が多くなってきていると思いますが、私も子供たちと一緒にこれからもずっと住み続けていきたいので、住民の方々や企業、行政などが一体となって、桃花台が明るく生活しやすい暮らしができればいいかなと思います。審議会で貴重なご意見聞かせていただきありがとうございます。

【会 長】

はい、どうもありがとうございました。まだまだ意見があろうと思いますけど、時間がきたので、今日出た意見いろいろございましたが、私の方からは是非ともお願いしたいのは、あまり難しいことを考えすぎずに、フレキシブルな余裕をもって取り組むというようなことが一つと、今こういうご時世の中で巨大な資本投下をしてホームランを打つようなことは難しく、やはり居住者、あるいは企業の方を中心に小さな活動が同時に多発的に、いろんなところから活動が起きることによって町が変わっていくと、

そういうヒット、あるいはバントを重ねていかないといけないような時代です。是非とも、とっつきやすいやり方で、あまり難しく考えずに、いろいろな幅をもって、極力多くの意見を取り入れて進めていただきたいと思います。それともう一つは、透明性というか公開性というか、皆さんに開示しながら是非とも一歩を踏み出していく。そうでないと、あまり大きなことを考えて足がとどまってしまうと、また10年間動かなくなるということになりますので、是非とも一歩を踏み出す機会にこの構想が出来上がるので、是非ともそういう機会になっていただきたいと思います。今までの議論を聞いていくと、この東部地域にはそのポテンシャルが十分に内在していると感じます。あるいは一部顕在化もしていますので、是非ともよろしくお願ひしたいというのをこの構想をまとめるにあたって、会長としての感想ということでお許しいただければと思います。

議事としては、あとその他がございしますが、事務局、何かございしますか。

【事務局】

本日、答申をいただきました東部振興構想（案）について、必要な手続きをしたうえで、今年度中に東部振興構想を策定させていただきます。冊子としての印刷は、来年度を予定しており、冊子が完成しましたら、委員の皆様にも送付させていただきますのでよろしくお願ひします。以上です。

【会長】

ありがとうございました。6回にわたって、非常に有意義な意見を出していただき、意見交換できたのではないかとということでもう一度感謝を申し上げたいと思います。ただ、今日は完成ではなく、やっとスタートラインに立ったということでございしますので、皆で次の一歩が踏み出せるということをお願ひ、あるいは肝に銘じて、今日の会議を終えたいと思います。どうもありがとうございました。

【事務局】

委員の皆様、本日はお忙しい中、長時間にわたり、議論をいただきましてありがとうございました。

なお、本日の会議の会議録につきましては、作成次第、委員の皆さんに送付し、内容の確認をしていただきたいと思いますと考えておりますので、ご協力をお願いします。

以上をもちまして、第6回小牧市東部まちづくり審議会を閉会いたします。本日は、ありがとうございました。